

## 組織総力で病氣療養中組合員 の前職場復帰を勝ち取る！

昨年末、病氣療養のために乗務員から駅へ兼務発令されていた組合員が、突如乗務員職場（大阪第二運輸所）へ配置転換される事態が発生しました。本人の意向を全く無視した一方的な乗務員への配置転換でした。

配転後、当該組合員は「体調が万全ではない。乗務は心配だ」と訴え続けました。にもかかわらず、大阪第二運輸所石野所長は「命をかけてやる気があるのか！」などと暴言を浴びせ、精神的苦痛に拍車をかけ、体調が万全でない組合員をさらに追い込み、あらたに心の病を併発させる事態へと追い込んだのです。

このような会社の対応は、本人が「会社を辞める」と言い出すのを待っているかのような対応であり全く許せるものではありません。私たちは、非人間的な対応に怒りを持って抗議し闘いを展開してきました。抗議行動、情宣活動、本社・関西支社への申し入れなど、本人が希望する駅へ戻すための闘いを進めてきました。そして、今回、この様な闘いによって、当該の組合員は前職場

（新大阪駅営業二科）への配置転換を勝ち取ることができました。

ところが、当該組合員に発令通知を渡すときに、川嶋副所長は「これが本望か！」などと捨て台詞のように本人に言い渡し通知書を手渡しました。人事運用をJR東海労の闘いによってひっくり返されたという会社の屈辱的で敗北的悔しさから出た言葉ではないでしょうか。しかし、これが会社の本質です。社員の体調のことなど全く考えていないのです。

葛西会長は「人事介入を容認するようなものは経営者の名に値しない」と著書の中で言っています。決して闘いによって戻したとは認めたくはないのでしょうか。声を出さなければ、泣き寝入りさせられてしまうのです。私たちが闘わなければ、今回の配転は実現できなかったと思っています。今後も社員を人間扱いしない対応に組織の総力を挙げて闘っていきます。

石野所長・川嶋副所長の暴言は許さないぞ！  
発令通知で「これが本望か！」と捨て台詞！